

愛媛県（愛媛県伊予市、松前町）

R5補正
R6当初

65

背景・課題

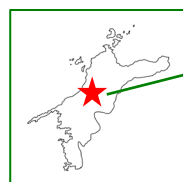
伊予市及び松前町では、スクミリングガイによる水稻苗の被害が年々増加しており、水稻の有機栽培拡大の阻害要因となっている。被害の軽減には、大苗定植が有効であるが、大苗に対応した機械導入は初期コストが高く、取り組みにくい状況にある。また、手作業による捕獲作業の見直しも課題である。このため、既存の田植機で対応できる大苗移植法の検証を行うとともに稚苗移植との雑草発生の違いを比較した。また、捕獲トラップを使用した省力化技術の検証を行った。

成果目標

- 既存の田植機を利用した大苗移植法による農薬に依存しない栽培体系の確立
- 捕獲トラップによる捕獲作業時間の削減

主な取組内容

- 大苗移植区ではスクミリングガイの被害が抑えられ、除草回数0回でも雑草が抑制できた（稚苗区は水田除草機で3回処理）。
- 大苗移植区と慣行の稚苗区との収量差はなかった（510kg/10a）。
- 20aのは場に8個の捕獲トラップ（上部開放型4個、上部閉鎖型4個）を設置した結果、4日間の捕獲数は881匹で、捕獲作業の省力化ができた。



伊予市、松前町

構成員

愛媛県、有機水稻生産者（農事組合法人）、J A松山市、J Aえひめ中央

品目

水稻

●稚苗19日苗と大苗32日苗の大きさの比較



●上部開放型、閉鎖型トラップでの捕獲



開放型の方が貝の回収作業は容易であるが、閉鎖型の方が多く捕獲できた。

●大苗移植区の生育状況



慣行区

大苗移植区

大苗移植区と慣行区の収量に差はなかった。

普及に向けた取組

令和4～6年度の検証結果を踏まえ、令和6年度に「グリーンな栽培体系導入マニュアル」を作成し、今後、生産者を対象とした指導を実施し、普及組織と農事組合法人等と連携して地域への普及・定着を図る予定。

問い合わせ先

愛媛県農産園芸課環境農業係
TEL：089-912-2555